

旅行アプリ『**NEWT**(ニュート)』、 **9/25はSDGsの日！全国1,741自治体から選出する** **「サステナブルツーリズム」先進自治体TOP30を発表**

株式会社令和トラベル(本社:東京都渋谷区、代表取締役:篠塚 孝哉)が運営する、かしこい、おトク、旅行アプリ『**NEWT**(ニュート)』は、9月25日の「SDGsの日」にあわせ、全国1,741の自治体を対象に「サステナブルツーリズム」先進自治体TOP30を発表しました。

サステナブルツーリズムは、単なる環境に優しい旅行ではなく、訪れる人と迎える地域が互いに尊重し合い、持続可能な豊かさを生み出す新しい旅のスタイルです。再エネ活用や地域循環、文化継承、誰もが楽しめる観光づくり、そしてSDGs推進力といった観点から、NEWTリサーチ部が独自に評価を実施しました。未来を変える一歩となる「参加型の旅」の参考として、次の旅行計画にぜひご活用ください。



本ランキングは、「環境への配慮」「地域経済への貢献」「文化・伝統の継承」「インクルーシブ観光」「未来性・SDGs推進力」の5つの評価軸(各100点満点)で構成し、令和トラベルが独自の調査・評価に基づき作成しました。

※本リリースはご自由に転載・引用いただいて構いません。出典を明記のうえ、以下のテキストにリンクを設定する形でご掲載ください。

【記載例】

[「海外旅行・国内旅行のツアーやホテル予約アプリNEWT\(ニュート\)」](#)による調査

※青文字下線部にはそれぞれハイパーリンクを挿入してください

■ 1位～10位：日本が誇るサステナブルツーリズムの開拓者たち

1位：熊本県 阿蘇市(97点)

環境19点・地域経済20点・文化伝統19点・インクルーシブ19点・未来性20点



photo by PIXTA

熊本県阿蘇市が日本のサステナブルツーリズムを代表するトップランナーとして、堂々の1位に輝きました。その最大の要因は、観光を「千年の草原」保全という地域最大の課題解決と見事に結びつけた「三方良し」の循環モデルにあります。阿蘇の草原は、世界的に評価される唯一無二の景観である一方で、人口減少や産業構造の変化により維持が困難になっています。この課題に対し、阿蘇市は立ち入りが制限されている牧野でのE-MTBライドツアーを企画。参加費に「牧野保全料」を組み込むことで、観光客が景色を楽しむだけでなく、その美しい景観を守るための保全活動に直接貢献できる仕組みを確立しました。

この取り組みは、単なる企業のCSR活動とは一線を画し、観光が地域社会の根幹に組み込まれた、持続可能な収益モデルを創出しています。地域の文化遺産を守るために、観光を一つのツールとして活用するその戦略的な姿勢は、観光庁の「サステナブルな旅アワード」で大賞を受賞し、国内外から高い評価を受けました。また、阿蘇ジオパーク推進協議会がエコツーリズム推進全体構想を策定していることや、2022年版「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選出されていることも、その先進性を裏付けています。

2位：宮城県 東松島市(96点)

【お問い合わせ】株式会社令和トラベル PR担当 pr@reiwatravel.co.jp 050-6865-4408

環境19点・地域経済19点・文化伝統19点・インクルーシブ19点・未来性20点



東松島市商工観光課 提供

東日本大震災の甚大な被害を乗り越え、持続可能な復興を成し遂げた東松島市が2位にランクインしました。同市は2018年に「SDGs未来都市」に選定され、震災からの復旧・復興を「SDGsの達成」という長期的な視点から再構築する道を歩んできました。その取り組みは、観光においても顕著であり、特に「宮城オルレ奥松島コース」を活用した施策が高く評価されています。このコースは、単なるトレッキングコースではなく、地域の自然環境や歴史、そして震災の記憶を伝えるストーリーテリングの場となっています。

奥松島地域は、2023年に国連世界観光機関（UNWTO）の「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に東北で初めて認定されました。この認定は、観光による地域経済の活性化、文化遺産の保全、そして震災からの再生という多角的な努力が、国際的な基準を満たしていることの証明です。観光客は、地元でとれた新鮮な牡蠣や海苔を使った料理を味わうことで地域経済に貢献し、復興記念公園の訪問を通じて、震災を「自分ごと」として捉える機会を得ることができます。こうした一連の体験が、単なる旅の思い出を超え、地域と訪問者の間に深い絆を築き、新たな地域循環を生み出しているのです。

東松島市 産業部商工観光課長 高野裕行様 コメント

全国第2位に選出いただき、大変光栄に存じます。東松島市は、東日本大震災からの復興を「持続可能性」の視点で進め、「世界の持続可能な観光地TOP100」に選定、奥松島地域が「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に認定されるなど国際的な評価をいただいています。宮城オルレ奥松島コースでのトレッキングをはじめ、縄文文化に触れる体験や現役漁師との漁業体験、さらに牡蠣や海苔など海の幸も魅力です。ぜひ東松島で特別な時間をお過ごしください。

3位:長野県 白馬村(95点)

環境19点・地域経済19点・文化伝統18点・インクルーシブ19点・未来性20点



白馬村観光課 提供

ウィンタースポーツの聖地として知られる白馬村は、観光の通年化と、環境に配慮したリゾート経営への大胆な転換を高く評価され、3位となりました。同村は2020年に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、再生可能エネルギーの導入や電気自動車の活用を進めるなど、観光産業が環境に与える負荷を最小限に抑えるための具体的な戦略を打ち出しています。冬のスキーリゾートから、夏のグリーンシーズンにはトレッキングやエコツアーといった多様なアクティビティを提供し、訪問者数や観光消費額だけでなく、持続可能性という視点を評価指標に加えています。

この総合的な取り組みが実を結び、白馬村は2023年にUNWTOの「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に認定されました。この国際的な評価は、美しい自然に甘んじることなく、それを地域全体で守り、多様なステークホルダー（自治体、観光事業者、地域住民など）が連携して、未来に向けた観光地経営を推進していることの証です。また、白馬村はユニバーサルデザインの推進にも注力しており、多言語表示やバリアフリー化を進めることで、年齢や国籍、障害の有無に関わらず、誰もが雄大な自然を楽しめる観光地を目指しています。

白馬村 観光課観光商工係長 矢口浩樹様 コメント

白馬村は雄大な北アルプスの自然に抱かれ、四季折々のアクティビティを楽しめる山岳リゾートです。地域文化や環境を大切にするサステナブルツーリズムを推進し、登山やスキーだけでなく、里山体験や地産食材を活かした滞在を通じて、人と自然が共生する持続可能な旅を提供しています。

4位:岐阜県 白川村(94点)

環境19点・地域経済18点・文化伝統20点・インクルーシブ18点・未来性19点



photo by Unsplash

世界遺産「白川郷」を有する白川村は、その美しい景観を未来に継承するための住民の強い意志と取り組みが評価され、4位にランクインしました。特に高く評価されたのは、合掌造りの屋根を30～40年に一度葺き替える伝統的な活動を、地域住民が一丸となって守り、観光客がその一部始終を見学できる仕組みです。これは、単に歴史的な風景を維持するだけでなく、「売らない・貸さない・壊さない」という住民の3原則に裏打ちされた、暮らしそのものを観光資源とする独自のモデルです。

この取り組みは、伝統文化を単なる展示物ではなく、生きている営みとして来訪者に伝え、文化の価値を深く理解させることに成功しています。同時に、観光客の増加に伴う住民の高齢化や担い手不足といった地域課題に対し、移住者を受け入れながら、共生を模索する柔軟な姿勢も示しています。この総合的な取り組みが評価され、白川村は2023年にUNWTO「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に認定されました。観光客は、この村を訪れることで、地域の生活と文化を守る活動に間接的に貢献し、日本の原風景がなぜ今もなお残されているのかを肌で感じることができます。

5位:徳島県 上勝町(92点)

環境20点・地域経済19点・文化伝統17点・インクルーシブ17点・未来性19点



上勝町企画環境課 提供

日本で最も有名な「ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)」を掲げる上勝町が5位にランクインしました。同町の取り組みは、観光客に「ごみ分別体験」を提供することで、単なる知識の伝達に留まらず、自身のライフスタイルを見つめ直すきっかけを与えている点が極めてユニークです。観光客は、宿泊施設「HOTEL WHY」で出るごみを43種類に分別したり、量り売りのコーヒー豆を利用したりする体験を通じて、上勝町の循環型社会を肌で感じることができます。

上勝町は2003年に「ゼロ・ウェイスト宣言」を行い、2018年には「SDGs未来都市」に選定されるなど、持続可能性を追求する明確なビジョンを持っています。その姿勢は、ホテルやゴミステーションを一つの観光資源として再設計した「上勝町ゼロ・ウェイストセンター」に象徴されています。ここは、誰かの不要が誰かの必要に変わる「くるくるショップ」を備え、建物自体がアップサイクルされた建材で作られるなど、町全体が「ごみゼロ」を体現する体験型のアトラクションとなっています。観光を、地域課題の解決と訪問者の意識変容を同時に促す「教育」の場として捉えている点が、この町の大きな強みです。

上勝町 企画環境課長 清井信子様 コメント

本ランキングで第5位にご選出いただきありがとうございます。ゼロ・ウェイストとは、ごみや無駄、浪費を意味する「ウェイスト」をゼロにすること。「ごみ」として捨てられるものを「資源」と考え、それを循環させてごみを出さないようにしようという考え方です。上勝町は、未来の子どもたちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、環境に配慮した「持続可能な地域社会づくり」に取り組んでいます。上勝町を訪れた際には、暮らしの中に息づくゼロ・ウェイストを見つけてみてください。

6位:愛媛県 大洲市(91点)

【お問い合わせ】株式会社令和トラベル PR担当 pr@reiwatravel.co.jp 050-6865-4408

環境18点・地域経済19点・文化伝統20点・インクルーシブ16点・未来性18点



大洲市観光まちづくり課 提供

大洲市は、歴史的資源を観光に活かす革新的な「分散型ホテル」モデルで注目を集めています。城下町に点在する古民家や歴史的建造物を再生し、それぞれを客室やレストラン、ショップとして活用するこのモデルは、街全体を一つの大きなホテルとして捉える新しい観光の形です。この取り組みは、単なる宿泊施設の提供に留まらず、空き家問題の解消や起業家・事業者の誘致を促進し、地域経済に新たな活力を生み出しています。

DMO法人「キタ・マネジメント」が中心となり、観光庁の支援も受けながら進められているこのプロジェクトは、文化財の保護と収益性を両立させる模範的な事例です。この結果、大洲市は国際認証団体「グリーン・デスティネーションズ」の「世界の持続可能な観光地TOP100選」に2年連続で選出されており、その取り組みは持続可能な観光地経営の好事例として国際的に認知されています。

愛媛県大洲市 環境商工部 観光まちづくり課 コメント

このたび、全国第6位という評価をいただき、大変光栄に存じます。大洲市は、市の中心を清流・肱川が流れ、自然や歴史・文化など多くの恵みを享受できる地域です。また、大洲城の城下町として栄えた町並みは、現在もその風情を色濃く残しており、多くの方に愛されています。今後も、これらの歴史的資源を活用した持続可能な観光まちづくりを推進するとともに、より多くの方に大洲市の魅力を伝え、地域の発展に寄与できるよう努めてまいります。

7位: 香川県 小豆島町・土庄町(90点)

環境17点・地域経済18点・文化伝統19点・インクルーシブ19点・未来性17点



小豆島町商工観光課 提供

オリーブ栽培発祥の地として知られ、美しい自然と温暖な気候に恵まれた小豆島は、今回7位にランクインしました。特に評価されたのは、両町が連携して推進する「誰もが旅を楽しめる」インクルーシブ観光の取り組みです。小豆島では、車椅子利用者も車いすのまま海水浴を体験できる「ユニバーサルビーチ」の活動を展開しています。障がいの有無や世代を超えて楽しめる観光モデルとして注目を集めています。

小豆島は国際認証団体「グリーン・デスティネーションズ」から国内初の「シルバーアワード」を受賞し、「世界の持続可能な観光地TOP100選」にも複数年選出されるなど、世界基準でも高い評価を得ています。観光を「消費される島」から「持続できる島」へと転換させようとする明確なビジョンと、両町が一体となった取り組みが、この島の未来を確かなものになっています。

小豆島町 商工観光課 コメント

小豆島町の名産品は、オリーブ・醤油・手延べ素麺・佃煮、観光地は、寒霞渓・二十四の瞳映画村・オリーブ公園など見どころ満載です。小豆島は、「島はひとつ」というスローガンのもと観光窓口を一本化し、小豆島観光ビジョンを策定しました。評価されたインクルーシブ観光の取組は、同ビジョンに掲げたアクションプランのひとつであり、持続可能な観光地として更なる高みを目指します。

土庄町 商工観光課 コメント

土庄町の主な名産品は、オリーブ・醤油・手延べ素麺・佃煮・ごま油、主な観光地は、エンジェルロード・世界一狭い海峡「土渚海峡」・迷路のまちなど見どころ満載です。持続可能な観光推進事業は、行政だけでなく、地元事業者や地域の人などへ取り組みが波及し始めており、島一体と

なって推進しています。観光により消費される島ではなく、観光により持続できる島を目指し、今後取り組みを進めて参ります。

8位: 栃木県 那須塩原市 (89点)

環境18点・地域経済18点・文化伝統17点・インクルーシブ18点・未来性18点



那須塩原市ツーリズム推進課 提供

那須塩原市は、温泉や豊かな自然といった地域資源を活かした「ウェルネスなツーリズム」を掲げ、持続可能な観光地域づくりに力を入れています。特に注目すべきは、ヨガや瞑想、温泉、スパ、森林セラピーなどのユニークな体験プログラムです。これは、単に自然を楽しむだけでなく、心身の健康増進を目的とした新しい観光の形であり、持続可能性と個人のウェルビーイングを両立させる試みとして高く評価されます。

さらに、同市は「那須塩原市観光マスタープラン」を策定し、観光事業者がSDGsを推進するためのパートナーシップ創出を目指すなど、自治体が主導する戦略的な観光政策が高い未来性を有しています。この計画性が評価され、国際的な認証団体「グリーン・デスティネーションズ」の「世界の持続可能な観光地TOP100選」に2年連続で選出されました。この受賞は、同市の取り組みが国際基準に照らしても優良な事例であることの証明であり、観光を通じて、人と自然、そして地域の暮らしが豊かになる未来を目指す確固たる姿勢を示しています。

那須塩原市 ツーリズム推進課観光政策係長 生井龍介様 コメント

栃木県北部に位置する那須塩原市は、東京から新幹線でわずか約70分とアクセスに優れ、豊かな自然と都市機能が調和し、暮らしやすい環境が魅力です。市内には塩原温泉郷や板室温泉といった歴史ある温泉地があり、心身ともに安らぎを与えてくれます。また、全国有数の酪農地帯であり、全国第2位の生乳産出額を誇ります。高原の自然が育んだ新鮮な牛乳や乳製品、農産品を活かした食も豊富に楽しめます。本市では、「ウェルネスなツーリズム」を掲げ、訪れる人、暮らす人、働く人の人生を豊か(Wealth)にする持続可能な観光地域づくりを目指しています。食と安らぎの環境を活かした、心身の健康を求める旅を体験してみませんか。

9位:群馬県 みなかみ町(88点)

環境20点・地域経済17点・文化伝統17点・インクルーシブ16点・未来性18点



みなかみ町観光商工課 提供

みなかみ町は、町の約9割を森林が占める自然資源の宝庫であり、ユネスコエコパークに国内8例目として登録された先進地域です。その豊富な自然を活かした「体験型エコツーリズム」が高く評価され、9位にランクインしました。同町のエコツアーは、ラフティングやトレッキングといったアクティビティだけでなく、地元ガイドによる自然解説や里山文化の紹介を通じて、単なるレジャーに留まらない「学びとつながり」を重視しています。

また、マイカー規制区域への電気バス導入や、「SDGs未来都市」への選定など、観光と環境保全を両立させるための自治体の戦略的な姿勢が明確に示されています。これは、自然環境を観光で消費するのではなく、観光を通じてその価値を再認識し、保全へとつなげる好循環を生み出

すものです。訪問者は、みなかみ町で旅をすることで、雄大な自然を五感で感じながら、その場所が持つ環境的な価値と、それを守る人々の思いを学ぶことができます。

みなかみ町 商工観光課 コメント

この度は、第9位に選出いただき、ありがとうございます。みなかみ町は、関東地方の最北に位置し、「利根川源流のまち」として首都圏約3千万人の経済と暮らしを支える水源地として、豊かな自然環境を「まもり・いかし・ひろめる」取組を推進しています。日本トップクラスの山と水の自然を有するみなかみ町で、様々な感動体験をしてみたいはいかがでしょうか。

10位:徳島県 三好市(87点)

環境17点・地域経済17点・文化伝統20点・インクルーシブ15点・未来性18点



三好市観光課 提供

徳島県三好市は、国の重要有形民俗文化財である「祖谷のかずら橋」を観光資源とする一方で、その維持・継承に観光をうまく活用している点が評価され、10位に選ばれました。年間約35万人の観光客が訪れるこの吊り橋は、3年に一度、昔ながらのやり方で自然の材料を使い、ほぼ手作業で架け替えが行われます。この伝統的な作業が、観光客に地域の文化を伝える貴重な体験となり、橋を渡ることのでられる収益が、その保全活動に再投資されるという、地域循環型のモデルを構築しています。

三好市は、この「かずら橋の架け替え」の取り組みが評価され、2023年に「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選出されました。これは、伝統文化の継承という地域課題が、観光の力を借りることで持続可能になることを示す好例です。三好市は、地域の歴史と文化を大切にしながら、

それを観光というツールで守り育てる姿勢が、真のサステナブルツーリズムを体現していると評価できます。

三好市 産業観光部観光課 コメント

この度は「サステナブルツーリズム先進自治体」に選出いただきありがとうございます。三好市は四国のほぼ中央に位置することもあり、古くから交通の要衝として発展してきました。また、「大歩危・祖谷」といったエリアは雄大な自然と独自の文化、そして「この地域の伝統を守り、育んできた地域住民の暮らし」が残っており、多くのインバウンド観光客が訪れています。皆様もぜひお越しいただき、日本の原風景をお楽しみください。

■ 11位～30位:サステナブルツーリズムを牽引する、次世代のホープたち

11位:北海道 下川町

12位:京都府 南丹市美山町

13位:香川県 丸亀市

14位:北海道 美瑛町

15位:岩手県 釜石市

16位:東京都 小笠原村

17位:鹿児島県 与論町

18位:山形県 鶴岡市

19位:長野県 小布施町

20位:福岡県 太宰府市

21位:三重県 鳥羽市

22位:奈良県 十津川村

23位:長野県 松本市

24位:埼玉県 飯能市

25位:富山県 上市町

26位:千葉県 君津市

27位:山形県 西川町

28位:岩手県 大船渡市

29位:奈良県 奈良市

30位:鹿児島県 奄美市

■旅を通じて、持続可能な未来を築く

今回の調査を通じて明らかになったのは、日本のサステナブルツーリズムが、単なるブームではなく、地域が抱える課題を解決するための強力なツールとして進化していることです。ランキング上位に名を連ねた自治体は、どれも独自の資源(自然、文化、歴史)を活かし、観光を「消費」ではなく「再生」のための原動力として捉えています。

ビジョンを軸にした戦略:多くの先進地域が、国際認証や国内アワードを目標に掲げ、自治体全体で長期的な戦略を策定しています。このビジョンが、環境、経済、文化といった多岐にわたる具体的な取り組みへと繋がり、強固な好循環を生み出していることが見て取れます。

地域循環型モデルの創出:観光客が支払うお金が、地域の雇用や文化継承、自然保護に直接還元される仕組みを構築している地域が目立ちました。これは、観光を通じて地域に貢献できるという新しい旅の価値観を具現化したものです。

テクノロジーの活用:デジタル技術は、過剰な観光客による負荷を軽減し、同時に、より深く、よりパーソナライズされた体験を創出する上で不可欠な要素となっています。

この記事が、あなたの次の旅のきっかけとなり、訪れる土地が持つSDGsの取り組みに少しでも関心を向けるきっかけになれば幸いです。地産地消の料理を味わったり、伝統工芸品を買ったり、地域のガイドさんと交流したり。旅の小さな一歩が、その土地の明るい未来につながることを忘れないでください。

※本ランキングは株式会社令和トラベルが独自の調査・評価に基づき作成したものです。掲載内容は2025年9月時点の情報に基づきます。

◆かしこい、おトク、旅行アプリ『**NEWT**(ニュート)』

web版 海外ツアー <https://newt.net/>

宿・ホテル <https://newt.net/hotel>

アプリ <https://newt.net/app>

◆公式LINE

<https://lin.ee/ZKchfbF>

■令和トラベル 会社概要

令和トラベルは「あたらしい旅行を、デザインする。」をミッションに、旅行におけるあたらしい体験や、あたらしい社会価値の提供を目指すデジタルトラベルエージェンシーです。2022年4月より、かしこい、おトク、旅行アプリ『**NEWT**(ニュート)』を提供しています。旅行業界における予約や管理業務のDXを最大化し、旅行というエクスペリエンスを通じた社会価値の創造に挑戦します。

【お問い合わせ】株式会社令和トラベル PR担当 pr@reiwatravel.co.jp 050-6865-4408

名称 : 株式会社令和トラベル
所在地 : 東京都渋谷区桜丘町20-1 渋谷インフォスタワー15F
代表者 : 代表取締役 篠塚 孝哉
創業日 : 2021年4月5日
事業内容 : 旅行代理店業
登録免許 : 第一種旅行業(観光庁長官登録旅行業: 第2123号)
所属協会 : JATA(一般社団法人日本旅行業協会)正会員、IATA(国際航空運送協会)公認代理店
会社HP : <https://newt.net/company>
『NEWT』ブランドページ : <https://newt.net/brand>
公式SNS
・LINE : <https://lin.ee/ZKchfbF>
・X : https://x.com/newt_travel
・Instagram : https://www.instagram.com/newt_guide/
・TikTok : https://www.tiktok.com/@newt_travel
・YouTube : https://www.youtube.com/@newt_travel